Market Letter 情報提供資料

米国金融政策（2026年9月FOMC）

2023年7月以来となる利上げを決定

2026年9月17日

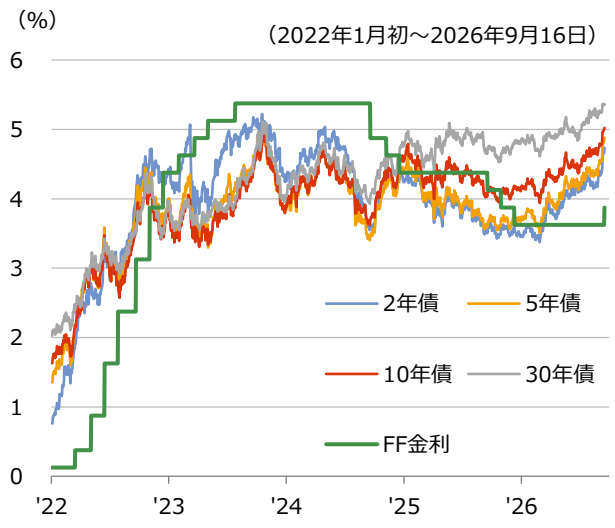
基調的なインフレ鈍化が確認されなければ12月に追加利上げへ

FRB（米国連邦準備制度理事会）は9月15日～16日（現地）にFOMC（米国連邦公開市場委員会）を開催し、政策金利であるFF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標レンジを0.25%pt引き上げ、3.75～4.00%とすることを全会一致で決定しました。

今回の声明文で、景気は「堅調」、失業率は「ほとんど変化なし」、インフレは「高止まったまま」との判断が維持される中、ウォーシュFRB議長は「基調的なインフレが明確かつ十分な速さで目標に向かっていると確信できない」ことを利上げの主因に挙げ、「一定の緩和度合いを取り除いた」としました。FOMC参加者のFF金利見通し（中央値）は2026・27年末ともに4.125%（前回は26年末3.875%、27年末3.625%）となり、年内にあと1回の利上げを想定していることが示唆されました。

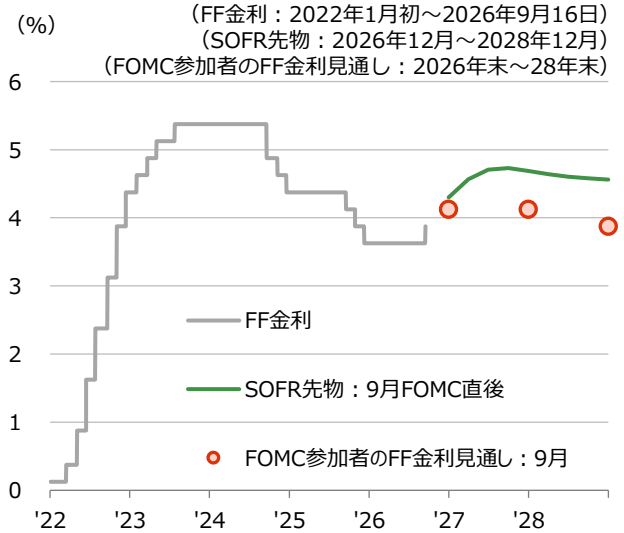
前月末のジャクソンホール会議以降、市場では今会合での利上げを織り込む動きが断続的に生じ、直前には利上げ確率が9割超まで上昇したほか、金利上昇・株安基調が続いていました。予想通りの決定だったものの、ウォーシュ議長がインフレ抑制を重視するタカ派な姿勢を示したことから、政策決定後に金利上昇・株安・米ドル高が進みました。現時点で10月FOMCにおける連続利上げを正当化するほどインフレリスクが高まっているとは考えにくいものの、今後発表される物価指標で明確なインフレ鈍化が確認されない限り、12月FOMCで追加利上げが実施される可能性が高いと思われます。

FF金利と米国債利回り



※FF金利は決定日ベースで誘導目標レンジの中心値
（出所）ブルームバーグ

FF金利の実績と見通し



※FF金利は決定日ベースで誘導目標レンジの中心値
SOFRは担保付翌日物調達金利　（出所）FRB、ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

■当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

■当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。

■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。